

明倫館だより

第43号
平成17年4月1日発行
発行人 井上晴雄
財団法人 南豫奨学会
南豫明倫館
〒184-8586
小金井市中町 4-18-26
TEL 042-383-9835(代)

沖は 純友の海なり
中山 孝司
海山も 鯨船
空もひとつに 春霞
吉田 明子
〔獅子唐句会〕

平成16年度主要行事報告

平成16年

- 4月 1日 16年度新入寮生16人入寮
- 18日 新入寮生学生歓迎会開催、自治委員会開催
- 25日 16年度第1回常務理事会開催、新入寮生歓迎会開催
- 5月10日 寮室壁紙・ドア鍵・サッシ枠補修・学生用風呂シャワー取替
- 24日 第2回隣地西方氏宅排水口工事実施
- 27日 監査役会開催
- 6月 5日 平成16年度第1回定例理事会開催
- 6日 自治委員会開催。16年度上期委員長に竹田重仁君(農工大3年)就任
- 17日 学生用トイレ修理
- 29日 インターネット配線工事実施
- 7月 2日 平成16年度第2回常務理事会開催
- 4日 自治会委員との懇親会開催
- 7日 第1回消防検査実施
- 25日 館内大掃除実施、バーベキュー大会開催
- 28日 植木剪定実施
- 30日 学生富士登山実施
- 8月 9日 夏休み開始
- 23日 夏休み終了
- 25日 4寮懇親会開催
- 10月 8日 松山OB会、17年度南豫明倫館運営説明会開催、宇和島OB会開催
- 9日 保護者懇親会開催、高校長懇親会開催
- 11月23日 第3回常務理事会、寮祭開催
- 12月10日 第4回常務理事会開催
- 12日 自治委員会開催、平成16年度下期委員長に岡本幸平君(電通大2年)就任
- 27日 冬休み開始

平成17年

- 1月 9日 学生新年会開催
- 11日 冬休み終了
- 12日 第2回消防検査実施
- 16日 4寮懇親会開催(於宇予学舎)
- 22日 平成16年度第2回理事会開催
- 2月11日 第1次入寮願書締切り
- 12日 卒業生歓迎会、第5回常務理事会開催
- 3月12日 第6回常務理事会開催
- 18日 入寮面接試験実施(於宇和島市)
- 20日 平成17年度新入寮生(12名)入寮開始



困難な時代を乗り越え 十四人が卒業

卒業生氏名(大学名・出身地)進路
一、将来の抱負 二、後輩への助言

菊地 史晃(慶応義塾大学・法学部・八幡浜市)

文部科学省

一 ゴルゴ13のように完璧な仕事をします。学力云々以上に、良識ある市民の育成を大きな目標として抱げたいと思います。

二 理不尽な要求をする先輩は論外ですが、従うべき先輩から多くを学び盗んで下さい。それをまた後輩に伝えて下さい。それが寮です。

安部田 晃久(一橋大学・商学部・西予市)

野村アセットマネジメント

一 他国に比しても相当に劣る日本の資産運用業の発展に資するべく自己研鑽に励む。仕事以外の目標は庭付二軒建、子供三人、犬一匹。寮に甘えすぎないように！但し、先輩・同輩・後輩とのつながりは大切に。この四年間だけの付き合いにするにはもったいない。

石野 達也(東洋大学・経営学部・西予市)

株式会社パシフィックネット

一 社会人としてふさわしい人物になりたい。社会性を身に付けて、社会の役に立つ人物になりたい。何事も積極的に行動したい。社会生活を通して、社会人として自立して欲しい。愛媛県南予地方の発展のために努力して欲しい。様々な困難を乗り越えてほしい。

宇都宮 桂(早稲田大学・商学部・西予市)

在学

一 明倫館OBの名に恥じない社会に貢献できる人間になれるよう、日々努力を惜しまず精進したいと思います。

二 明倫館という恵まれた場所に居られることに感謝し、勉学遊び、何にでも全力で挑んで下さい。

氏原 大介(東京工科大学・工学部・宇和島市)

フォーサイトシステム株式会社

一 働かずに暮らしていきけるよう頑張って仕事をしたいと思っています。

二 できれば院に進学した方が後生のためにはいいです。就職活動は、四〜五月にだれてくるのでそこで頑張るように心掛けて下さい。

勝間 広人(東京理科大学・工学部・宇和島市)

TDCCソフトウェアエンジニアリング

一 がんばります。

二 がんばってください。

細川 雄一郎(東京大学・文学部・宇和島市)

千葉大学大学院文学研究科

一 新しいことを書くこと。

二 美しいものを書くこと。

自分の幸せがそのまま周りの幸せにつながるような生き方を選んで下さい。

松本 佳久(東京工科大学・工学部・宇和島市)

公務員浪人

一 自立

二 今年もよろしくお願ひします。

宮本 圭(専修大学・商学部・宇和島市)

就職

一 自分自身でカッコイイと思える大人になりたいと思っています。

二 目標をみつけ、それに向けて頑張ってください。

山中 一貴(専修大学・商学部・宇和島市)

一 自分のやりたいことを早く見つけ、それに向ってつき進んでいきたいです。

二 大学にいる間にしかできないことがあるのでそれを自分でみつけて、頑張ってください。

山中 哲雄(杏林大学・医学部・宇和島市)

在学

一 まだ学生ですが、親に心配をかけないように勉強をがんばりたいと思います。

二 勉強をがんばって下さい。

若山 真一郎(中央大学・商学部・松山市)

越智会計コンサルティング

一 付加価値のある社会人でありたいと思います。大学生活の中でいろんなものに触れる機会を作ってください。それが社会に出たら財産になると思います。

増田 拓朗(東京理科大学・工学部・宇和島市)

留年

一 特にありません。

二 特にありません。

中山 達也(慶応義塾大学・法学部・松山市)

一 法律学を通じて身に付けた思考力や解決力を生かして社会に貢献していきたいと思ひます。

二 四年間は瞬間に過ぎて行きます。特に三年生からはゼミ等で忙しくなるので、一年二年の間に色々挑戦してみてください。

寮生同士のつながりを

自治委員長 岡本 光平
電通大(三三)

伝統ある南豫明倫館の委員長を務めさせていただくことになり、非常に嬉しく思います。私は、異なる環境の人々と接することで視野を大きく広げられると考えています。その点で、様々な大学学部の学生が集う明倫館は非常に恵まれています。この点を生かすためにも、寮生同士のつながりをより強めていきたいと思ひます。委員会のメンバーをはじめ、皆と協力しながら、私たちの学生生活をより充実したものにしていきたいです。

平成16年度 後期自治委員会

?委員長	岡本 光平(3年)
?副委員長(東)	友澤 孝規(3年)
?副委員長(西)	西田 幸平(3年)
?風紀	二宮 泰明(2年)
?会計	友岡 清志(2年)
	西田 幸平(3年)
?企画	谷 雄介(2年)
?整備	古谷 和崇(2年)
?広報	稲田 佑也(2年)
?情報	友澤 孝規(3年)
	岡本 光

財団法人南豫奨学会

「奨学金支援会」だより

平成一六年度「南豫奨学会・奨学金支援会」結果報告、並びに一七年度分について募集を継続中

平成一六年度からスタートしました「奨学金支援会」の会計報告を致します。お蔭をもちまして、平成一七年三月三日現在で、申込総数一九三人、総金額は目標の三〇〇万円を越え、三〇〇万三千円に達しました。

内訳は以下の通り。さっそくOBの皆様を始め関係各位から多大なご支援をいただき、一七年度から奨学生を募集し、貸与を開始する予定です。

また、去る三月中旬より募集を開始しました平成一七年度分も、すでに一〇一人、計一六七万円に達しています。

一七年度分について、未だお申し込み頂いていない方々のご厚志を賜われますようお願い申し上げます。お振込みは左記の郵便振込番号か銀行口座で受け付けております。

郵便振込番号 〇一五〇一七九六五三

名義 『南豫奨学会奨学金支援会』

伊予銀行新宿支店普通預金口座

一六〇六三九

名義 『財団法人南予奨学会・奨学委員会』

委員長 松本 二郎

平成16年度支援会申込並びに入金状況 (平成17年3月31日現在)

	申込者数(人)	払込金額(円)
理事・監事他	16	460,000
評議員	33	640,000
OB	82	928,000
現父兄	25	350,000
一般	30	355,000
法人	4	200,000
市町村	3	70,000
合計	193	3,003,000

平成17年度支援会申込並びに入金状況 (平成17年4月15日現在)

	申込者数(人)	払込金額(円)
理事・監事他	11	330,000
評議員	25	470,000
OB	30	340,000
現父兄	12	130,000
一般	19	240,000
法人	3	150,000
市町村	1	10,000
合計	101	1,670,000

寮生活四年間を満喫して

菊地 史晃
(慶応義塾大学 法学部・文部科学専攻)

東京に来て、はや四年の歳月が過ぎようとしている。「光陰矢のごとし」「少年老い易く学難し」ともに然りである。東京の大学に進学することが決まり、親に言われるがまま、それが当然であり、また、唯一であるかのように明倫館にやってきたわけではあるが、今振り返るとこの選択が人生の大きな岐路となったようである。言うならば、明倫館は私の家であり、先輩諸兄は父であり兄であり、後輩たちは子であり弟であり、そして何より先輩後輩ともに友であった。今回はこの紙面をかりて、四年間の寮生活を振り返るとともに、今なお明倫館に残る後輩たちに、老婆心ながらもいくつか教訓じみたことを書いてみようと思う。

思えばいろいろなことがあった。明倫館での生活はひとえに人と人との繋がりがから生まれるものである。寮生活といえども、その気になれば誰とも接触することなく一日を終えることができるだろう。しかし、私が明倫館での思い出を振り返るとき、自分ひとりの思い出はなく、ひとつひとつの思い出の中に多くの寮生の顔があった。

数ある思い出の中から、一つを選び出すことは至極困難な作業である。しかし、その中でも最も記憶に残っているのが、大学三年次に行った富士登山である。参加人数は若干少なめではあったが、幾多の苦難を乗り越えて見た、空に溢れんばかりの星々。御来光は筆舌しがたく、非常に印象深いものであった。実は、この富士登山には、非日常的な大自然の美しさ以外にも深い思い出がある。それは、具体的事実としては、予報で天候不良が予期され、催行が中止か上級生の顔色が曇る中、とある一年生が「雨でも登ろう」と言ったこと、四年生である隊長が私費で出発式の際全員に栄養剤や菓子類、軍手等を準備し配布したこと、山中体調不良を訴えたところ二年生を気遣いながら登山をしたこと、こういったことから窺われた。つまり、私が感動を覚えたのは、「一人がみんなのために、みんなが一人のために」という、言葉通りの行動を目の当たりにできたことである。最高学年である四年生の、全体を見渡したうえで、配慮、責任感、そして統率力、一、二年生の若さ、勇気、さらに全員の優しさ、思いやりと行動力、全てがうまく機能して、富士登山というたった

二日間の行事に明倫館のあるべき姿を垣間見ることができたことが何より私の心を揺さぶったのである。自分は他の人にならないものを持っていて、また、他の人は自分にならないものを持っていて、それらが集まるならば、当然自分ひとりではできないことができるようになる。これが人と人が集まって集団になる基本的な考え方なのではないか。

四年生になったとき、私も富士登山を企画した。前回よりも参加人数が増え、寮内の一大イベントの様相を呈してきたと喜んだが、記録的な台風の上陸のため、七合目を越えたあたりで下山を決定した。御来光を拝めなかつた下級生たちは大変残念だと思おうのであるが、四年生同士で悩んで悩んで出した勇気ある撤退を、一、二、三年生が素直に受け入れてくれたこと、また、暴風雨とも呼べるような雨風の中、お互いを励ましあいながら登山できたこと、私にとってはこれで十分である。またひとつ、明倫館が大きいく一つになる瞬間を肌で感じることができたのだと思っている。

この他にも、日頃話さずして時間のかかった飯と風呂、ビールをたらふく飲んだ飲み会、競馬場で野宿した翌日のGレース、四人で正月に池に入って一年の誓いをたてたこと、多くの人に支えられた公務員の受験勉強、細かくなればなるほど思い出の数は増えていくばかりで、大変充実した大学生活を送ることができたのではないかと思っている。

しかしながら、諸手を挙げて明倫館を絶賛することができない事実も確かにある。未だ何人も人がうまく寮生活に溶け込めていないのではないかと思う。個人主義が声高に叫ばれるこの御時世に、強制的に寮生活を動かすことには抵抗を感じるが、だからといって明倫館にいながら一人であることはすこく残念だし、悲しいことであると思う。解決策は人間関係を密にするしかないのではないかと。先輩後輩の縦の関係、同学年の横の関係、両方大事にしてほしい。先輩のよい言動がよい後輩を育て、後輩の厳しい視線がまたよい先輩を育てると思っている。抽象論に拘泥し具体的な解決策は提示できず、また、自分自身もよい先輩として実践できたか不安の残るところであるが、自治会を中心としてより多くの寮生が実りある寮生活を全うできるようにがんばってほしいと思うのである。多少口うるさくなった感もあるが、明倫館のことを思っているとご容赦いただきたい。今後益々の明倫館の発展を期待しつつ、今回は

本田先輩のこと

谷 雄介
(早稲田大学 政治経済学部 三年生)

「寮生活に甘えるな。」とは前々年度退寮された本田裕幸先輩の言葉であった。当初はその言葉の意図を十分に理解することが出来ていなかったように思う。しかし、寮生活を一年終えようとしている今、本田先輩の言いたかったことがよく分かる。

昨年三月末日、本田先輩退寮の宴が催された。その日に入寮したばかりだった僕もその座に招いていただいた。本田先輩については、高校時代に僕が生徒会長の任を務めていた時から「伝説の生徒会長」としての評判はたびたび耳にしていたし、また、受験で東京に来た時に大学の案内をしてくださったたり、昼食に豚カツ定食をご馳走してくださったのも本田先輩であった。

さて、その宴もたけなわ、寮に帰って飲みなおそうかと居酒屋を後にする際、僕はとんでもない失敗を犯してしまった。誤って居酒屋の別の客の靴を履いて外に出て来てしまったのである。しばらくしてそれに気づき居酒屋に引き返したものの、靴を履き違われた客は不機嫌さを顕わにしている。謝って許しを請うほかはない。その時、僕のそばに立って、僕をかばい、ともに謝ってくださったのは本田先輩であった。幸いすぐに許していただき、僕たちは帰寮の途につくことができた。その帰り道に本田先輩から皆に語られたのが冒頭の言葉である。

長々と自身の恥ずかしいエピソードを語ることになってしまったが、本田先輩の偉大さを伝えることがこの文章の本意ではない。僕は本田先輩の姿勢から今後の南豫明倫館がどうあるべきかを考えたい。

寮生ならば周知の通り、本田先輩が南豫明倫館に残した功績は大きい。先輩は今なお寮生のことをよく気にかけていただいているし、僕を含め先輩のことを慕う寮生も多い。それは南豫明倫館にとっては喜ぶべき事態と言える。

しかし、「寮は一枚岩でないといかん。」が口癖であった本田先輩の意志を継ぐ人間が果たしてどれほどいるだろうか考えたとき、僕は一抹の疑問を持たざるを得ない。と言うより、はつきり言ってしまうはそのような人間は皆無である。先日の卒業生歓送会の席で、出席した卒業生の少なさについて岡本理事が苦言を呈されていたが、現状の南豫明倫館は未だ一枚

岩ではないのだ。

その確信は、先日の自治会総会において自治会費問題について話し合ったとき、寮生皆に共有されたものであるように思う。故にここでは議論の内容については詳しく触れないが、人間関係よりも金銭関係が優先される寮って何なのだろうというのが僕の率直な思いだ。また、議論に加わろうとする者はまだ良い方で、そんなこと自分には関係ない、どうでも良いといった雰囲気がある。入寮説明会の面接では何ともうまく言えるということだろう。

南豫明倫館での寮生活は快適だ。朝食・夕食は賄いがついているし、その時間帯にも幅がある。入浴の時間も比較的自由であるし、特に厳格な門限もない。ネット環境も整備され、何ん自由なく生活することが出来る。だからこそ、冒頭の「本田先輩の言葉が俄然意味を帯びてくる。南豫明倫館では他の寮生と接触を持たずとも四年間を過ごすことの出来る環境が整備されている。しかし、だからこそ、「寮生活はただの一人暮らしとは違う」という至極当たり前の前提を僕たちは今一度考えなければならぬのではないだろうか。

四月から二年生になる。寮に後輩が出来るわけだ。もし後輩が去年の僕のような失敗をしたときに、僕は本田先輩のようにいられるだろうか。傍観者としての立場に終始し、後になって後輩を叱りつけて先輩面をするような人間になつてしまいはしないだろうか。

編集後記

▼各地で地震災害・自然災害・交通災害などが多発しています。どこでどんな事件に巻き込まれるか、予想もできません。特に、都心にいたり、雑居ビルの中、電車のなかなどで地震にあたりすると、手の打ちようがありません。▼そういう時大事なのが連絡網です。無論ケータイも使えなくなりますが、記憶しておいてほしいのは、災害用伝言ダイヤル。①録音用と②再生用があって、自分が無事だと知らせた場合は171111十自分の電話番号。何か連絡が入っていないか再生する場合は、171122十相手の電話番号です。

▼もうひとつは、父兄以外の近親者への連絡者を決めておくこと。できれば関東地区近郊に在住している人が望ましい。以上とりあえず二つのことを家族で確認しておいて下さい。